

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点1-1-①： 高等専門学校の目的が、それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

(観点に係る状況)

学校教育法第115条、高等専門学校設置基準第2条2、独立行政法人国立高等専門学校機構法第3条、同第12条3に沿って、本校の使命を定めている(資料1-1-①-1)。

本校では、4項目の教育目的を定めている(資料1-1-①-2)。この教育目的をより具体化するために、(A)～(H)の学習・教育目標を設定している。

準学士課程では、上記8項目の学習・教育目標を基本として、一般科目及び各学科それぞれの特徴を反映させた目標としている(資料1-1-①-3)。専攻科では、大学工学教育による技術者とは異なった視点を持つ「最も得意とする専門技術の知識・能力を持ちながら、関連する他の専門技術や一般教養の知識・能力を複合した複眼的視野に基づき、人との関わりや自然や社会との共生に配慮した多次的なシステム思考のできる技術者」の養成を目的としている。専攻科の学習・教育目標は、「共生システム工学」教育プログラムの目標と同じである(資料1-1-①-4)。

「大学設置基準等の一部を改正する省令」の施行に伴い、平成20年に、各学科・各専攻における人材の養成に関する目的を教育上の目的として学則に定めた(資料1-1-①-5, 6)。

(分析結果とその根拠理由)

学校教育法に定められた高等専門学校に求められる目的を実現するために、学校の使命、教育目的、学習・教育目標を定めている。また、学習・教育目標に沿って一般科目及び各専門学科がそれぞれの特徴を反映させた目標を定めている。専攻科においては準学士課程をさらに高度化した目標を定めている。また、各学科及び各専攻において、その特色に応じて人材の養成に関する目的を教育上の目的として明確に定めている。

以上のことから、本校は高等専門学校一般に求められる目的に適合した学校の使命、教育目的、学習・教育目標、人材養成に関する目的を学科及び専攻科ごとに明確に定めている。

資料 1 - 1 - ① - 1

本校の使命

本校は、教育基本法の本質にのっとり、学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的に、高等教育機関として社会に対して、三つの使命を担う。

(1) 教育

人間味豊かで、創造力があり、いかなる困難にも屈しない強固な意志と厳しい試練にも耐えうる強健な身体とを持ち、豊かな教養があり、工学についての基礎学力が十分で、実践的技術に優れた人物を養成する。

(2) 研究

学術研究の発展に寄与するため、地域の企業、自治体や民間組織などと共同研究を進め、研究活動の成果を教育に還元する。

(3) 地域連携

地域に根ざした高専という視点から、技術交流や地域の発展に寄与する活動を通じて、教職員・学生参画により地域社会との連携を図る。

(出典 学校要覧)

資料 1 - 1 - ① - 2

教育目的

本校では豊かな教養と感性を育てると共に、科学技術の進歩に対応した専門の知識・技術を教授し、以下の能力を備えた技術者を養成することを教育目的にしています。

1. 健康な心身と豊かな人間性
2. 柔軟な問題解決能力
3. 実践的な技術力
4. 豊かな国際性と指導力

(出典 平成 23 年度学生生活のてびき P.1)

学習・教育目標

機械工学科

- (A) 共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身
豊かな人間性と健康な心身が自然や社会との共生の原点であることを認識し、自らの健康維持と幅広い教養の醸成に努める技術者
- (B) 国際性と指導力
人道主義を基礎とした国際交流の経験と国際・地域情勢への高い関心を持ち、地球的視野で共生に配慮した思考ができる国際性とたくましい指導力を有する技術者
- (C) 技術者倫理
この世に「もの」を生み出す専門的職業人として、自己の技術行為に確固たる責任を持ち、人々が自然や社会と共生して安全かつ快適な生活を営めるように努める技術者
- (D) 基礎学力と自主的・継続的学習能力
数学・自然科学・情報技術及び機械工学の幅広い基礎知識を有し、自己の能力を高め、技術的背景を広げるため、自主的・継続的に学習できる技術者
- (E) コミュニケーション能力
日本語による効果的な意思疎通（コミュニケーション）能力を高めると共に、英語によるコミュニケーションの基礎能力を身につけ、技術者集団の一人として協調的に貢献できる技術者
- (F) 柔軟かつ創造的な設計能力
実践を重視した「ものづくり教育」を基礎に、柔軟かつ創造的な姿勢で基礎的な学識を総合化し、システム、単体機械、機械要素の設計が効果的にできる技術者
- (G) 実践的な問題解決能力
機械工学的諸問題に対して、基礎的学識や実践的経験などを総合的に用いた解決プロセス（問題探索-基本原理の適用-モデル構築-ツール選択-結果の評価）を適用できる技術者
- (H) 多次元的なシステム思考
機械工学を最も得意とする分野とし、かつ広く関連分野の知識を持った複眼的視野に基づき、自然や社会との共生に配慮した多次元的なシステム思考のできる技術者

(出典 平成 23 年度学生生活のてびき P.3)

資料 1 - 1 - ① - 4

専攻科及び「共生システム工学」教育プログラムの学習・教育目標

- (A) 共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身
 - (A-1) 自然や社会との共生について配慮できる。
 - (A-2) 教養を高める努力ができる。
 - (A-3) 心身の健康保持の大切さを学び実践できる。
- (B) 国際性と指導力
 - (B-1) 複数の外国語と文化について学習し、国際性を養う。
 - (B-2) 地球的視野で共生に配慮して異文化への対応ができる。
 - (B-3) グループワークに積極的に取り組み、指導力を養う。
- (C) 技術者倫理
 - (C-1) 「もの」や「空間」を生み出す専門的職業人として、技術者の責任を認識し、自然や社会に及ぼす技術の影響について理解できる。
 - (C-2) 専門分野の学会の倫理条項について理解し、説明できる。
- (D) 基礎学力と自主的・継続的学習能力
 - (D-1) 微分積分学，線形代数学，確率統計，数値解析などの数学および物理，化学，生命科学，地球物理，環境科学などの自然科学の基礎知識を修得し，それらを用いた問題解決能力を養う。
 - (D-2) 設計・システム，情報・論理，材料・バイオ，力学，社会技術などの基礎工学に関する知識と能力を養う。
 - (D-3) 卒業研究や専攻科特別研究を通して，研究・学習状況の把握や記録を習慣づけ，自主的・継続的な学習能力を養う。
- (E) コミュニケーション能力
 - (E-1) 日本語による適切な文章表現，口頭発表および討論ができる。
 - (E-2) 英語による技術論文の読解力，プレゼンテーションの基礎能力を有する。
 - (E-3) 日本語による技術論文および英語によるアブストラクトが書ける。
- (F) 柔軟かつ創造的な設計能力
 - (F-1) 専門分野の知識や技術を用いて，課題に適応する具体的なシステムを設計できる。
 - (F-2) 「ものづくり」を体験的に学習し，柔軟かつ創造的な発想ができる。
- (G) 実践的な問題解決能力
 - (G-1) 基礎的な実験技術を修得し，実験結果を種々の方法で解析できる。
 - (G-2) インターンシップや専攻科特別研究を通して，理論と実現象との相違や問題点を発見・抽出し，問題を解決する能力を養う。
- (H) 多次元的なシステム思考
 - (H-1) 主専門分野の知識と技術を深く学び，システム思考ができる。
 - (H-2) 共通的工学関連分野の幅広い基礎的知識を学習し，多次元的な思考力を養う。
 - (H-3) 他の専門分野についても積極的に学習し，複眼的視野を養う。

(出典 平成 23 年度学生生活のてびき P.7)

資料1-1-①-5

各学科における人材養成に関する目的

第7条の2

(1) 機械工学科

機械をはじめとする「もの」を対象に、その開発、設計、製造など広範囲な開発・技術部門において十分に
対応できる能力を育成するため、機械系の応用力学、材料、生産技術や制御などに関する基礎教育を重点的に
行う。さらに、機械工学実験、設計製図、工作実習、プログラミングなどの実習教育をきめ細かく行うととも
に、応用展開科目や開発研究を適切に教授することにより、新しい技術発展にも柔軟に対応できる創造性豊か
な実践技術者の養成を目的とする。

(出典 平成23年度学生生活のてびき P.67)

資料1-1-①-6

各専攻における人材養成に関する目的

第47条の2

(1) 機械・電子システム工学専攻

機械及び電子システムの設計開発に必要な応用工学系基幹科目やより高度な工学知識を教授・研究し、併せ
て応用的な実技・実習を課すことにより、倫理観とコミュニケーション能力を備え、先端的な生産システム
や工業製品の創造開発に貢献できる技術者の養成を目的とする。

(2) 建築・都市システム工学専攻

都市環境及び建築環境を合理的に計画、設計、構築するのに必要な計画学、構造力学、環境工学の分野を教
授・研究し、併せて応用的な実技・実習を課すことにより、倫理観、コミュニケーション能力を備え、創造
力豊かなエンジニアリングデザイン能力を持ったより高度な専門技術者の養成を目的とする。

(出典 平成23年度学生生活のてびき P.71)

観点1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校の使命は玄関に掲示している。教育目的、学習・教育目標、及び人材養成に関する目的は、学生生活のてびきに掲載している（資料1-2-①-1～3）。

教員には教員会で説明している。また、各教員は、シラバスの中で学習・教育目標のうち、それぞれの担当科目で教えるべき内容について記号で明記するようになっている（資料1-2-①-4）。

学生に対しては、入学オリエンテーションや学年当初のガイダンスなどで、学生生活のてびきや配付資料によって、これら教育目的と学習・教育目標等を説明し、周知の徹底を図っている。準学士課程（第4学年以上）及び専攻科課程の学生は、前・後期ごとに教育目的と学習・教育目標の達成度を自己評価している（資料1-2-①-5）。学生は自己評価の結果を次期以降の目標設定及び学習方法の改善に反映させている。

専攻科・JABEE委員会は、教職員や学生を対象にアンケート調査を行い、目的の周知度を調査している（資料1-2-①-6）。教職員を対象とした調査については、結果を教員会で報告し、フィードバックも行っている（資料1-2-①-7）。

（分析結果とその根拠理由）

全教職員及び全学生に対して、学生生活のてびき等により目的の周知を図っている。また、教員はそれぞれの担当科目における学習・教育目標についてシラバスに明記するように義務づけられている。学生は、教育目的及び学習・教育目標について前・後期ごとに達成度を自己評価している。学生及び教職員を対象とした周知度の調査結果から、少なくとも過半数以上の構成員に目的が周知されている。

以上のことから、本校では目的が学校の構成員（教職員及び学生）に周知されている。

教育目的の周知

はじめに

この「学生生活のてびき」は、学生の皆さんが、明石高専での学生生活をできる限り有益に過ごせるように、必要な情報を冊子としてまとめたものです。

「てびき」の前半では、学習・生活上、知っておくべき事柄をまとめてあります。履修関係、授業料の免除関係等々の重要な事柄がたくさん記載しており、更に事柄によっては、参照すべき規則も明記してあります。

また、「てびき」の後半では、学則をはじめとする重要な規則・様式等をまとめてあります。前半の説明等で分かりにくい点があった場合には、規則そのものによって確認してください。

なお、本校ホームページにも主な内容を掲載していますので、更新内容を随時確認してください。

1. 本校の教育目的及び学習・教育目標

(1) 教育目的

本校では豊かな教養と感性を育てると共に、科学技術の進歩に対応した専門の知識・技術を教授し、以下の能力を備えた技術者を養成することを目的としています。

1. 健康な心身と豊かな人間性
2. 柔軟な問題解決能力
3. 実践的な技術力
4. 豊かな国際性と指導力

学習・教育目標の周知

機械工学科**(A) 共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身**

豊かな人間性と健康な心身が自然や社会との共生の原点であることを認識し、自らの健康維持と幅広い教養の醸成に努める技術者

(B) 国際性と指導力

人道主義を基礎とした国際交流の経験と国際・地域情勢への高い関心を持ち、地球的視野で共生に配慮した思考ができる国際性とたくましい指導力を有する技術者

(C) 技術者倫理

この世に「もの」を生み出す専門的職業人として、自己の技術行為に確固たる責任を持ち、人々が自然や社会と共生して安全かつ快適な生活を営めるように努める技術者

(D) 基礎学力と自主的・継続的学習能力

数学・自然科学・情報技術及び機械工学の幅広い基礎知識を有し、自己の能力を高め、技術的背景を広げるため、自主的・継続的に学習できる技術者

(E) コミュニケーション能力

日本語による効果的な意思疎通（コミュニケーション）能力を高めると共に、英語によるコミュニケーションの基礎能力を身につけ、技術者集団の一人として協調的に貢献できる技術者

(F) 柔軟かつ創造的な設計能力

実践を重視した「ものづくり教育」を基礎に、柔軟かつ創造的な姿勢で基礎的な学識を総合化し、システム、単体機械、機械要素の設計が効果的にできる技術者

(G) 実践的な問題解決能力

機械工学的諸問題に対して、基礎的学識や実践的経験などを総合的に用いた解決プロセス（問題探索-基本原理の適用-モデル構築-ツール選択-結果の評価）を適用できる技術者

(H) 多角的なシステム思考

機械工学を最も得意とする分野とし、かつ広く関連分野の知識を持った複眼的視野に基づき、自然や社会との共生に配慮した多角的なシステム思考のできる技術者

人材養成に関する目的の周知

(各学科における教育上の目的)

第7条の2 各学科における人材養成に関する目的その他の教育上の目的は、次のとおりとする。

(1) 機械工学科

機械をはじめとする「もの」を対象に、その開発、設計、製造など広範囲な開発・技術部門において十分に対応できる能力を育成するため、機械系の応用力学、材料、生産技術や制御などに関する基礎教育を重点的に行う。さらに、機械工学実験、設計製図、工作実習、プログラミングなどの実習教育をきめ細かく行うとともに、応用展開科目や開発研究を適切に教授することにより、新しい技術発展にも柔軟に対応できる創造性豊かな実践的技術者の養成を目的とする。

(2) 電気情報工学科

高度情報化社会を支える重要な要素である電気情報関連分野において、広範化・高度化する技術に対応するために必要な電気、電子、情報、通信分野の基礎教育を第1学年から第3学年において行う。さらに、第4学年及び第5学年では電気電子工学コースにおいてエネルギー工学、制御工学、通信工学、

(出典 学生生活のてびき P.67)

電子物性工学、また情報工学コースにおいて情報ネットワーク、情報理論、プログラミング、ソフトウェア工学等の応用科目を教授する。これらの教育により電気情報関連分野の全般に渡る基礎的能力を持ち、かつ電気電子あるいは情報分野に関する高度な能力を持つ幅広い分野に対応できる技術者の養成を目的とする。

(3) 都市システム工学科

国土や地域の開発、防災、交通網・インフラ整備、環境保全など、人間の豊かな社会生活を支える都市基盤を創造するのに必要な測量学、構造力学、水工学、地盤工学、計画学、コンピュータ技術、材料工学、防災工学、環境工学分野の基礎理論を教授するとともに、工学実験、コミュニケーションスキル、建設マネジメントなどの実践的なエンジニアリングデザイン教育を行うことにより、高度な専門基礎学力と自主的問題解決能力を備え、国際社会に貢献できる創造性豊かな技術者の養成を目的とする。

(4) 建築学科

人間生活の基盤である住宅や建築施設を歴史、文化、自然環境や多様な社会との調和のうちに創造するために、計画系、構造系、環境系の専門分野に関する基礎知識として建築計画、建築史、構造力学、建築工学実験、環境工学や情報処理科目などを教授する。さらに、これらを総合する科目として建築設計演習や建築構造演習などがある。基礎と応用の教育を通して工学的基礎知識と幅広い教養を併せ持ち、芸術的要素と技術的要素を統合する豊かな創造力と総合力を持つ人材の養成を目的とする。

(出典 学生生活のてびき P.68)

(各専攻における教育上の目的)

第47条の2 各専攻における人材養成に関する目的その他の教育上の目的は、次のとおりとする。

(1) 機械・電子システム工学専攻

機械及び電子システムの設計開発に必要な応用工学系基幹科目やより高度な工学知識を教授・研究し、併せて応用的な実技・実習を課すことにより、倫理観とコミュニケーション能力を備え、先端的な生産システムや工業製品の創造開発に貢献できる技術者の養成を目的とする。

(2) 建築・都市システム工学専攻

都市環境及び建築環境を合理的に計画、設計、構築するのに必要な計画学、構造力学、環境工学の分野を教授・研究し、併せて応用的な実技・実習を課すことにより、倫理観、コミュニケーション能力を備え、創造力豊かなエンジニアリングデザイン能力を持ったより高度な専門技術者の養成を目的とする。

(出典 学生生活のてびき P.71)

シラバス

平成23年度 シラバス 授業計画

英語 II A(English II A)

担当教員名	松田安隆
学科・開講期・単位数	機械工学科 2年 通年 一般科目 必須科目 2単位
授業の形態	講義
科目の概要	英文構造を理解し、読む能力を身につける。 簡単な英語を聞き取り、表現する能力を身につける。 小テストを適直行い、語彙の増強をはかる。
テキスト(参考文献)	南村俊夫(他)、「Voyager English Course 2」、第一学習社
履修上の注意	毎時予習して授業に臨むこと。 居眠り、私語、内職、携帯電話の使用などは欠席扱いとする。 音声 CD を家庭でも積極的に活用することを強く推奨する。
学習・教育目標	(B)(E)
目標達成度(成績)の評価方法と基準	合格の対象としない欠席条件(割合): 年間授業回数の1/4以上 (1) 年間4回の定期試験(60%) (2) 授業で行う小テスト(20%) (3) 課題・レポート(10%) (4) 平常点(授業中の応答、学習意欲・態度、出席状況など)(10%) この配分に基づく評価点が60点以上の者を合格とする。
連絡先	matsuda@akashi.ac.jp

(出典 平成23年度シラバス)

学生による学習目標の達成度評価結果

平成21年度 学生による学習目標の達成度評価結果

学習目標	準学士課程				専攻科課程			
	第4学年		第5学年		第1学年		第2学年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身	1.56	1.59	1.55	1.61	1.38	1.78	1.64	1.72
(B)国際性と指導力	1.28	1.35	1.31	1.38	1.47	1.48	1.46	1.47
(C)技術者倫理	1.15	1.30	1.33	1.46	1.51	1.72	1.58	1.79
(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力	1.41	1.50	1.45	1.53	1.40	1.52	1.70	1.66
(E)コミュニケーション能力	1.06	1.25	1.34	1.40	1.45	1.53	1.34	1.51
(F)柔軟かつ創造的な設計能力	1.37	1.42	1.39	1.52	1.55	1.72	1.58	1.75
(G)実践的な問題解決能力	1.34	1.46	1.46	1.56	1.46	1.65	1.58	1.66
(H)多次元的なシステム思考	1.33	1.41	1.40	1.52	1.51	1.68	1.61	1.72

評価点: 十分達成できた(2点)、普通(1点)、達成できなかった(0点)

(出典 自己点検・評価報告書 P.96)

資料1-2-①-6

教育目的と学習・教育目標の周知度(%) 2010年度(5月)

		4つの教育目的					一般科目および各自の専門学科の 学習・教育目標					共生システム工学の 学習・教育目標				
		5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
学 科	1 学年	1.9	23.9	23.4	44.9	5.9	1.2	22.2	30.8	40.7	5.1	/	/	/	/	/
	2 学年	1.8	19.1	20.4	33.7	25.1	3.0	18.5	23.7	34.7	20.1	/	/	/	/	/
	3 学年	3.9	10.1	26.9	37.2	21.9	2.8	13.9	22.5	41.4	19.5	/	/	/	/	/
	4 学年	3.6	15.1	45.8	25.9	9.6	4.8	13.9	43.4	28.9	9.0	7.2	18.1	63.3	8.4	2.4
	5 学年	6.5	13.6	26.0	32.5	21.4	6.5	13.0	30.5	33.8	16.2	7.9	9.3	41.1	25.2	16.6
	平均	3.5	16.3	28.5	34.9	16.8	3.7	16.3	30.2	35.9	14.0	7.6	13.9	52.8	16.5	9.2
専 攻 科	1 学年	0.0	35.5	32.3	32.3	0.0	/	/	/	/	/	17.2	41.4	27.6	13.8	0.0
	2 学年	0.0	36.0	36.0	28.0	0.0	/	/	/	/	/	0.0	56.0	40.0	4.0	0.0
	平均	0.0	35.0	35.4	29.6	0.0	/	/	/	/	/	9.3	48.1	33.3	9.3	0.0
学生平均		4.3	17.6	35.9	29.3	13.0	3.7	16.3	30.2	35.9	14.0	7.8	18.9	50.0	15.4	7.8
3以上の割合		57.7					50.1					76.8				

(注1)周知度の度 1:全く知らない 2:見たことがある 3:説明を受けたことがある
4:大体知っている 5:よく理解している

(出典 専攻科・JABEE委員会作成資料)

資料1-2-①-7

明石高専の教育目的や使命、学習・教育目標に関するアンケート結果(1)(2010.06)(教職員)

教育目的と学習・教育目標の周知度(教職員)(2010.6)

所属		周知度(%)														
		4つの教育目的					一般科目および各自の専門学科の 学習・教育目標					共生システム工学の 学習・教育目標				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
教 員	M	0.0	10.0	10.0	40.0	40.0	0.0	10.0	10.0	60.0	20.0	0.0	10.0	10.0	40.0	40.0
	E	0.0	0.0	15.4	53.8	30.8	0.0	0.0	7.7	69.2	23.1	0.0	0.0	16.7	41.7	41.7
	C	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	62.5	37.5
	A	0.0	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	44.4	55.6
	G	0.0	5.3	15.8	31.6	47.4	0.0	5.3	15.8	57.9	21.1	0.0	10.5	10.5	42.1	36.8
	平均	0.0	3.3	10.0	45.0	41.7	0.0	3.3	8.3	61.7	26.7	0.0	5.2	8.6	44.8	41.4
3以上の割合(%)		96.7					96.7					94.8				
職 員	総務課	0.0	46.7	26.7	26.7	0.0	6.3	68.8	12.5	12.5	0.0	0.0	56.3	18.8	25.0	0.0
	学生課	0.0	18.2	9.1	45.5	27.3	0.0	45.5	0.0	54.5	0.0	0.0	27.3	9.1	54.5	9.1
	技術教育支	0.0	27.3	27.3	36.4	9.1	0.0	36.4	27.3	27.3	9.1	0.0	20.0	30.0	40.0	10.0
	平均	0.0	23.2	19.6	33.9	23.2	1.8	36.8	14.0	38.6	8.8	0.0	28.6	16.1	39.3	16.1
3以上の割合(%)		76.8					61.4					71.4				
教職員平均		0.0	14.4	14.4	41.2	29.9	1.0	22.4	10.2	49.0	17.3	0.0	17.9	12.6	42.1	27.4
3以上の割合(%)		85.6					76.5					82.1				

(注)周知度の程度 1:全く知らない 2:見たことがある 3:説明を受けたことがある
4:大体知っている 5:よく理解している

(出典 2010年10月教員会配布資料)

観点1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の使命、教育目的、学習・教育目標、及び人材養成に関する目的は、学校要覧及びホームページで公表している。(資料1-2-②-1~5)。学校要覧等の資料は、中学校、卒業生や修了生の進路先(企業・自治体、大学・大学院)等に広く配付されている(資料1-2-②-6)。

就職先企業および卒業生、修了生にアンケートを実施するなど、本校の教育課程編成等の改善のための取組を継続的に行っている(資料1-2-②-7)。

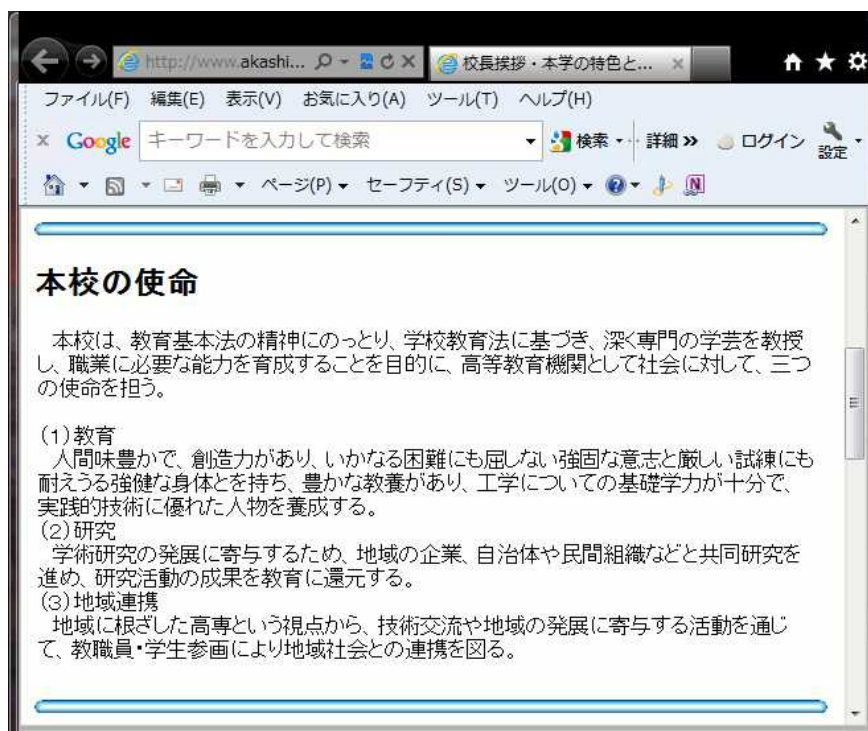
(分析結果とその根拠理由)

本校ホームページに、本校の使命、教育目的、学習・教育目標、人材養成に関する目的、養成する技術者像をすべて掲載している。また、中学校や進路先の企業・自治体・大学・大学院にはそれらを記載した学校要覧を配付している。就職先企業等に対するアンケート調査とその検討を継続的に行っている。

以上のことから、本校の目的が、社会に対して広く公表されている。

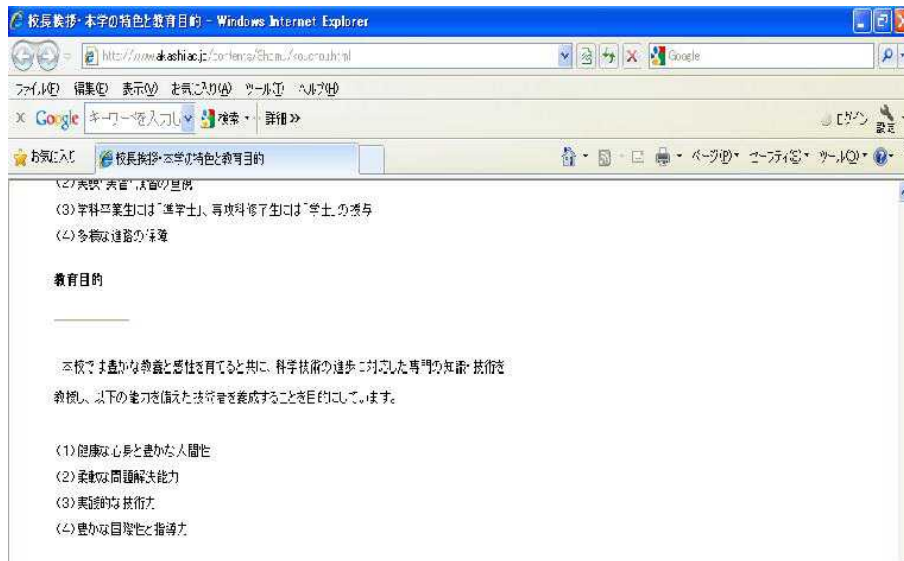
資料1-2-②-1

使命の公表



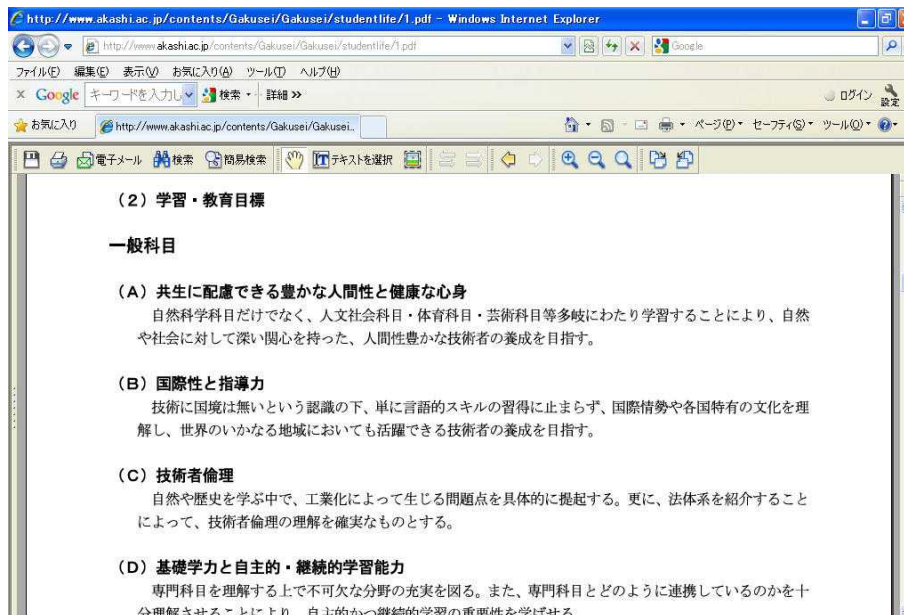
(出典 本校ホームページ)

教育目的の公表



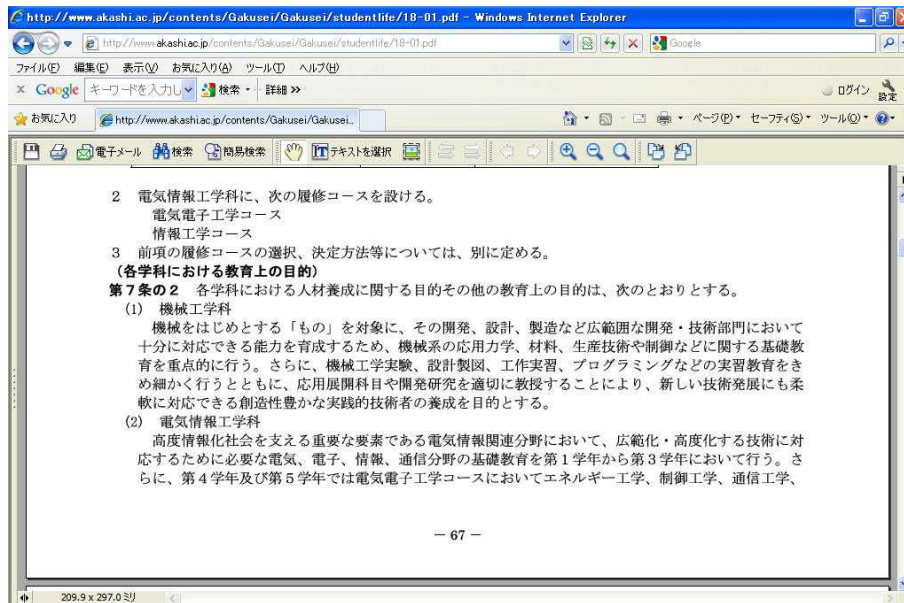
(出典 本校ホームページ)

学習・教育目標の公表



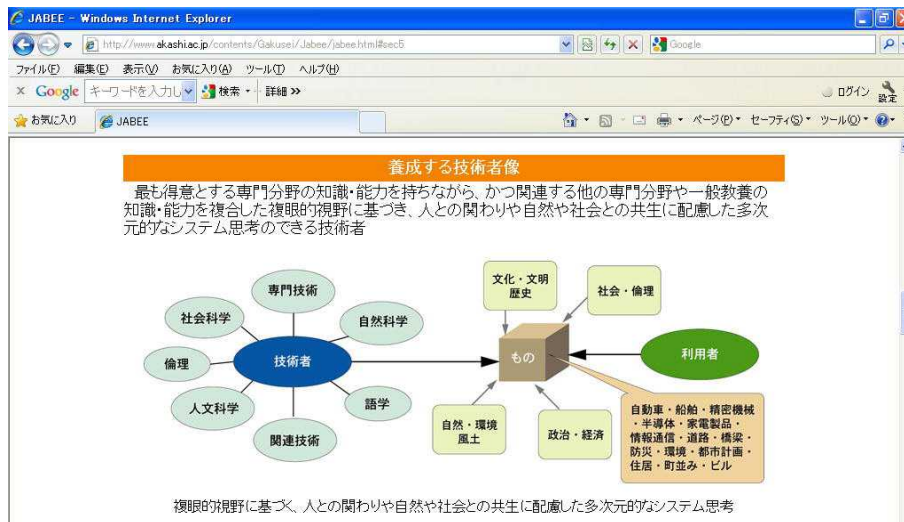
(出典 本校ホームページ)

人材養成に関する目的の公表



(出典 本校ホームページ)

養成する人物像の公表 (専攻科)



(出典 本校ホームページ)

資料1-2-②-6

使命や教育目的等の掲載状況と資料の配布先

資料	使命			教育目的	学習・教育 目標	人材養成 に関する 目標	養成する 人物像	配布先
	学則第1	教育方針	地域貢献					
学校要覧		○		○	△		○	全教職員 中学校・進路先
学生生活のてびき	○			○	○	○		全教職員 全学生
専攻科・共生システム工学の手引き					△		○	全教職員 専攻科学生
シラバス 本校ホームページ		○		○	○			
明石高専 中期計画							○	全教職員
テクノセンター概要 本校ホームページ			○					
本校ホームページ	○	○	○	○	○	○	○	

△: 専攻科及び共生システム工学の学習・教育目標のみを掲載

(出典 事務資料等から作成)

資料1-2-②-7

進路先および卒業生修了生アンケート結果

教育目的の反映度合(人)

対象者	教育目的	明石高専の授業やカリキュラムへの反映度合				
		反映されて いる	どちらかといえば 反映されている	どちらともい えない	どちらかといえ ば反映されていない	反映されて いない
卒業生	健康な心身と豊かな人間性	21	56	47	16	4
	柔軟な問題解決能力	25	73	43	3	0
	実践的な技術力	59	59	20	6	0
	国際性と指導力	4	30	61	41	8
企業	健康な心身と豊かな人間性	14	17	9	1	0
	柔軟な問題解決能力	4	26	7	3	1
	実践的な技術力	4	24	10	2	1
	国際性と指導力	0	9	27	4	1

(出典 自己点検・評価報告書 P.110)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・準学士課程の一般科目と各学科，専攻科課程のそれぞれにおいて，8項目の学習・教育目標を明確に定めている。
- ・目的の周知のために，それらを各種の印刷物に掲載し，全教職員及び該当学生に配布している。また，本校ホームページを通じて社会に広く公表している。
- ・目的に関するアンケートを実施し，その結果を分析・検討することで，教育課程編成等の改善に役立てている。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準1の自己評価の概要

学校教育法に定められた高等専門学校に求められる目的を実現するために，学校の使命，教育目的，学習・教育目標を定めている。また，これらを基本として一般科目及び各専門学科がそれぞれの特徴を反映させた目標を定めている。専攻科においては準学士課程をさらに高度化した目標を定めている。また，各学科及び各専攻において，その特色に応じて人材養成に関する目的を明確に定めている。

全教職員及び全学生に対して，学生生活のてびき等により目的の周知を図っている。また，教員はそれぞれの担当科目における学習・教育目標についてシラバスに明記するように義務づけられている。学生は，教育目的及び学習・教育目標について，前・後期ごとに達成度を自己評価している。卒業生・修了生や進路先に目的・目標の教育活動への反映度についてのアンケート調査を実施するなど，その達成のための教育が行われているかを点検している。

本校の使命，教育目的，学習・教育目標，人材養成に関する目的，養成する技術者像を広く社会に公表するために，本校ホームページに掲載し，学校要覧等を中学校や進路先の企業・自治体・大学・大学院に配付している。